

新潟県産小麦生産への復活の道のり

新潟小麦の会（新潟県新潟市）

◎新潟県の小麦栽培を復活させたい!!

新潟県内では、収量が不安定であるなど、「小麦は儲からない」と言われており、平成5年の冷害で県内の小麦生産がゼロになった。

しかし、平成18年、小千谷市生産者の取組をきっかけに、丸榮製粉（株）の声掛けにより、生産者、実需者、生産資材メーカー、行政等を構成員とする「新潟小麦の会」を発足。

新潟県産小麦の復活をスローガンに、栽培技術の向上を図り、共働する生産者の増加により供給量が大幅アップ。

○生産者、研究機関、実需者の連携で、復活

◆小千谷市の生産者

- ・平成17年頃、自家製パンを試作。（海外産小麦使用）
- ・新潟県産の小麦のパンを作りたいと思い、平成17年、東北農研機構に直接電話で相談。（平成18年に初収穫）

◆丸榮製粉（株）（製粉会社）

- ・平成20年頃に、生産者から新潟県産小麦の買取依頼。
- ・新潟県、新潟市、醤油組合、パン組合、学校給食会等に県産小麦復活を声かけ。

◆新潟小麦の会を設立

- ・平成24年に丸榮製粉（株）が、事務局として設立。
- ・実需者等による販売等に関する勉強会を年3回、現地での栽培検討会を年1回開催し、構成員で共有。

◆東北農研機構（研究機関）

新潟にあった品種と栽培方法のアドバイス。

- ①「ゆきちから」と「こゆき小麦」を勧める。
- ②新潟小麦の会設立後も、勉強会、栽培について助言。
- ③国の補助を受けて、新潟県、丸榮製粉（株）と連携し、砂丘畑地パン用小麦の栽培マニュアルを作成。

○生産（入口）から、販売（出口）までの連携【丸榮製粉の県産小麦買取実績】

H20年

H30年

R4年

R9年（目標）

1トン



100トン



170トン



1,000トン

【今後展望】

- ・令和9年産まで1,000トン（パン用、うどん用等）を目標に生産拡大。
- ・これまでに、主に強力粉（パン用）品種を生産していたが、**中力系薄力粉用小麦品種（うどん等）の生産にも取り組む。**

【課題】

- ・土壌条件、天候等を踏まえた**生産技術の確立**とともに、**収穫の安定化。**
- ・生産量増加に備えた**低温貯蔵庫の確保。**